

令和3年度 道・絆プロジェクト 三陸復興国立公園 観光PRブース出展事業

記憶と再生の物語は、より確かな未来へ。

三陸復興国立公園

SANRIKU
FUKKO
NATIONAL
PARK

1 目的

当協会は、三陸復興国立公園の利用促進と観光客の誘致拡大を目的に活動し、本事業は、宮古盛岡横断道路や三陸沿岸道路の全線開通によって繋がる青森県、岩手県、宮城県からの個人旅行者を誘客するためにショッピングセンター等において観光PR活動を行うもの。

そして、旅行意欲や嗜好に関するアンケート調査を併せて実施し、誘客戦略策定にも役立てる。

2 実施体制

〈主たる実施団体〉

■三陸復興国立公園協会（事務局：岩手県宮古市）

〈協力〉（会員）

■八戸市 ■階上町 ■久慈市 ■野田村 ■普代村 ■田野畑村 ■岩泉町 ■宮古市 ■山田町 ■大槌町 ■釜石市 ■大船渡市 ■陸前高田市
■気仙沼市 ■南三陸町 ■女川町 ■石巻市 ■三陸鉄道（株） ■岩手県北自動車（株）

3 実施内容

- (1) 三陸復興国立公園協会観光PRブース出展（八戸会場）
 - ・実施日 令和3年11月27日（土）10時00分～17時00分
11月28日（日）10時00分～15時00分
 - ・会場 イオンモール下田 1階西コート（青森県八おいらせ町）
 - ・参加者 619人（アンケート回収数）
- (2) 三陸復興国立公園協会観光PRブース出展（仙台会場）
 - ・実施日 令和3年12月4日（土）10時00分～17時00分
12月5日（日）10時00分～15時00分
 - ・会場 イオンスタイル仙台卸町 1階卸町駅側入口付近（宮城県仙台市）
 - ・参加者 513人（アンケート回収数）
- (3) 三陸復興国立公園協会観光PRブース出展（盛岡会場）
 - ・実施日 令和4年3月5日（土）10時00分～15時00分
3月6日（日）10時00分～15時00分
 - ・会場 イオンモール盛岡 1階さんさ広場（岩手県盛岡市）
 - ・参加者 696人（アンケート回収数）

- 【内 容】
- ・アンケート抽選会・三陸沿岸道路に係るパネル展示
 - ・各市町村のパンフレット配布（景勝地及び道・絆プロジェクトロゴマーク入りビニール袋に入れ配布。）
 - ・特産品販売会・マリンアクティビティ紹介（盛岡会場のみ）

4 成果品・周知方法など

道・絆プロジェクト支援金を活用し、三陸復興国立公園内市町村の景勝地及び道・絆プロジェクトロゴマーク入りのビニール袋を作成した。
また、イベントチラシの作成及び抽選会に係るチラシを作成し、会場内での配布、掲示を行いイベント誘客を図った。



ビニール袋



イベントチラシ



5 実施状況（写真）



アンケート調査
（八戸会場）



抽選会・PR活動
（八戸会場）



物販ブース・ゆるキャラ
（八戸会場）



アンケート・抽選会
（盛岡会場）



三陸沿岸道路のPR
（仙台会場）



各市町村の物販販売
（仙台会場）



ゆるキャラによる賑やかし
（仙台会場）



マリンアクティビティPR
【サップ・ビーチヨガ】（盛岡会場）

6 総評

- すべての会場でアンケート抽選会の効果もあり多くの方に足を運んでいただけた。
- 三陸復興国立公園のPRと併せ、三陸沿岸道路を活用した周遊観光のPRや開通・復興の状況について説明を行うことができた。
- 八戸会場では来場者の約9割が青森県内、仙台会場でも来場者の約9割が宮城県内の買い物客であり、家族連れ等が多く見受けられた。
- アンケートでは12/18に全線開通となる三陸沿岸道路について、関心を持っている方が非常に多く、「コロナが落ち着いたら、三陸沿岸道路を利用しているいろいろなところに行ってみよう」といった声が多く聞かれた一方で、三陸復興国立公園について、八戸会場では約4割弱、仙台会場では約6割が「知らない」と回答しており、各市町村の景勝地である「浄土ヶ浜」、「龍泉洞」といった名称は知っているが、「三陸復興国立公園」の名称の認知度が低いと感じられる結果となった。
- 今後、三陸沿岸道路等の復興道路を利用した周遊観光をPRしていく上で、「三陸復興国立公園」の認知度の向上、観光客誘致のために今回のようなPRイベントのほか、モニターツアーやインターネット広告、情報誌、テレビ・ラジオの情報番組等で、より一層のPR活動が必要であると感じている。